
鋭い改良は、自分自身の皮膚に威厳をつけられて、節約するために平気で嘘をつくでしょう。

cut-up

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

鋭い改良は、自分自身の皮膚に威厳をつけられて、節約するために平気で嘘をつくでしょう。

【Nコード】

N3334L

【作者名】

cut-up

【あらすじ】

実験小説、カットアップ技法は使っていない

リンとあなた、美しいです。それは、明日、あなたを微笑んで願うでしょう。あなたが泣くのに会われました。あなたの悲しみが、外観を出で、するのを見たので、私は、空を決して通過しないのが不可能になったと思いました。強い意見が、ばたつくのに必要です。したがって、あなたの微笑を見たいと思います。

それは、速く泣き終えます。私は目を逸らすことができませんでした。

あなたはあなたが私の長い髪、紫色でウエストまでに広がるので、首がそれをねたむ場所で接続された髪を考えますか？

確かに、天使はあなたに適合しています。それは、あなたが目を照らす階段を優雅に上がりながら、浮かびます。しかしながら、あなたは私を選ぶことができます。既に叫びを終える睡眠。世界が明日終わっても、今日、既に眠ってください。未来のあなたは眠らなければなりません、そして、現代のあなたは最後のあなたでさえ既に眠ったに違いありません。

私は、目覚めることと同時にあなたが笑ったと聞きます。それはうれしいです。

しかしながら、それは昨日のその別天地でした。あなたは重力を感じますか？

私は直接あなたの微笑を見ることができませんでした。いくつかの始めが仲間を破りました。それは破られました。髪は切られました。

それは空で踊りました、そして、紫色の髪を風に飛ばしました。私の長い長い髪。

輝いている階段は私を連れて行きません。私は、ばたつくのを止めました。私は、髪で投げながら、考えます。あなたはねたまれています。

リンとあなた、美しいです。それは、明日、あなたを微笑んで願うでしょう。

心がなくても、私は、ものが様々であると感じます。

それは木のように匂いました。

その後、それはマットとほこりなどのように匂いました。私はそれにいます。

虫の声と夏の穏やかな風が草を震動させる音と猫の叫びは完了しています。私は断言できない、それがそれにあるスペースと外部にいます。

人が静かに呼吸するとき、それは眠っています。

布団の和服のボディーが肺で。

私は、それにいるように思えます。

私が望んでいるならこの人が呼吸しないので。

しかしながら、私は帽子を脱いでいませんでした。まだこの人の家さへへの招待を考えていないので、それはそうです。そして、それは地球床に行きました、そして、私はおけの中にひと井戸杯の水を届けました。

ぬるま湯が私に入ることと同時に私は帽子を脱ぎました。窓から注がれた月光は、青白かったです、そして、私の髪は藤色でした。私が首を震動させたとき、帽子の長い髪は、以下をスムーズに流れました、そして、それはひざに達しました。また、速度に関して、現在飲まれている水が、のどを通過して、外れたとき、依存も非常に速かったです。

月が完全に雲に隠れたのを確実にしたとき、私は、あの人の部屋に戻りました。この人が見られて、それを見るとき、まだ、節約道はあるように思っています。しかしながら、人を判断する賃金注意は目です。

私は私が今まだ下を見ている人の目を見ていません。そして、いいえがある、何、この人がもつ目を開けるところ。

この人は彼の心を裏切りました。人が持っているもので心は外に出されることができません。

所有者だけがそれを出すことができないので、心を治療する方法を決めることができます。しかしながら、それ、それは単に生きています。

私がこの人の人生を止めるなら、この人の心は私のものになります。究極であり、それは、聞かれて、吸い込まれます。私に入った心は、浄化されて、見えなくなります。

私は覚悟を決めました。しかしながら、その時です。私の髪が人のほおに触れたとき、この人は、かすかに微笑しました。私は、その時霧を隠す雲と月のように小さい鼻息で吹いて、揺るがされ、消え失せました。

それは、この人の心を出かけさせた息でした。

夜空の中の紫色

湾の岸の中に猫がいます。それは品がありません。私のサインが理解されるとき、それは猛烈に逃走しました。私はとても怯えていますか？ 犬は、吠える、逃走する猫、およびそれが一斉に昆虫にほえ終えます。そのように… それほどおびえている多く？ 私はそれですかそれともまたはあまりに…

私は、沈んで、夜、時間なしでのんきな男性を見ます。右手は海の表面以外に出されました。だれか、あなたが思うとは釣竿を広げています。それをつかむ、あなたが、思うだれか… それは残念ですが、それは、あなたが以下の肺に置く酸素ではありません。それは貧しく少しなりました。私はすっかり秘密を漏らしました。あなたの髪、父親の遺伝で、ぐるぐる。それであるときに、通り過ぎても、それは広がりません。それは私のものと共に比較ものになりません。私の顔が成長したなら、見られた未だかつては薄暗くして、私の髪がありますか？……… しっかり、見ます… あなたは髪でした、そして、父親は何回も非難されました。私はそのようなあなたが

嫌いです。あなたには、それが欲しかったなら、私の髪は私のためにあなたにたいへん分割されましたが、聞かれた耳がありませんでしたそれには、それがありませんでした。私の外観を見なかったあなたが、嫌です。

あなたは疑われます。私が答えるとき、私はここにいますか？夜空になった後に。そして、あなたが今見えている夜空から広げられて、それはそうした私の髪です。あなたは、それで同意について可能であることで、良い男性ではありません。他の男性はたいへんどちらも変化しませんが、それはあなたではありません。

私はいましたが、膨張を調べると、あなたのほおはそれが生きているあなたの唯一の証拠としてどう利かせたか意志、通ってください。それぞれは、あなたのお父さんが左手で作ったものです。あなたは、それが利き手でないのに気付きましたか？ 私は、そうだったかそうであった、口を閉じて、または人の髪をあなたの右手の本当の側面まで剃らせました。私は地獄に落ちるでしょう。あなたは、いつ捕らえますか？ しかしながら、あなたはそつと私の髪に触れただけです。私の紫色の髪に。

また、人々であるときに、だれがのんきに見えるかが一つの心の下部を打った、音が聞かれるところで悲しいです。

私はあなたを愛しています。

ある一定の小さな町

少女は行方不明者になりました。時に、10の年と名前がリンです。それが孤児であり、いつも奇妙な絵を描いたリンを、町の人々が嫌であり、恐れられました。いつも死んだ両親が、彼女の絵に描かれました。それは、消えて、逝く死にかかっている両親の外観を引き起こした絵です。行方不明、なくなるようになって以来、探し通っていました、しかし、町の人はいあまりに容易にリンの検索をやめました。どこリンが今やしていたことは、本当に安全であるかもしれないか、またはそのための一つなどのように始まって以来、重

大と、そして、心配に存在しませんでした。しかしながら、リンは生きていました。町はギャップの森林の内部とコンクリートで完成した小屋に閉じ込められました。犯罪者は、そこに住み着いた放浪者と、薬物中毒者でした。リンはそのような男性によって誘拐されました。男性は小屋のリンの顔を見ました、そして、リンの目は初めて、見られました。犯罪。重みを加えます。怯える。何か他。推論してください。鋭い悲鳴。上げます。小屋。主要。搾り取ります。見えなくなってください。

その後、リンは、決して助けと呼ばないようにしました。それはどんな願望のためにもそれと異なっていないません。リンが間でスペースから小屋の絵を壁に描き始めたそして転換注がれた、線光の下にあった赤レンガがある壁で空腹の天井。リンはほんとうは分かりません。あなたはどの理解しますか？ そのように……一人で。見られて、それは絵が実際にそうであるリンです、そして、最も苦痛になつて、だれかを望んでください。別ない。しかしながら、リンは、それがいつ無意識、および叫びで描かれて、上げられるかを両親に考えます。そして、それは突然考えます。彼女が生きていたか、または生きる必要はなかったなら、もう両親のところに逝かせてください……リンは彼女の手を胸に当てました。複雑な気持ち、は動悸で、より強く私の脈とそれを混ぜます。彼女の身体は、彼女の気持ちと思うよりさらに弱くしぶとくなるまでそれを撃退するよ、に、生きるように戦いました。しかしながら、リンは、1週間後に削つて、指摘できたレンガを使用することによって、自発的に人生を断ち切りました。

最初にそれを目撃したのは、町の人でなくてまた放浪者ではありません。天使は存在の場合にさえ受信するのにリンを言いません。するのが、可能であっても、リンには、天国でそれで死ぬ心がありません。また、したがって、リンのものが子育てするということであることのように、リンは同じ運命を選びました。リンに舞い、降りたのは、天使ではありません。それはこれです。私。

私はあなたを愛しています。リンは私がリンの両親に会ったとき、泣いている間、空を見上げていました。その時、しばらくリンによって彼女の外観があったという願望でまっすぐに見られて、リンは私に見えていました。目は話しました。それに、廃物に加えていないように、苦しんでいました。それ。父母は連れて行かれました、そして、それは適当な状態で言われませんでした。したがって、それを放っておかずに、リンは話していました。

小屋の天井は至るところにを剥き取ります。そして、光がどんどん流れたとき、リンの傷は、見えなくなつて、唇は豊かにされて、真新しいしわは柔らかい閉じられている目でほおに引きつけられて、リンは微笑みました。それが目の一つからこぼれて、私がそつと降下している涙を拭いたとき、リンはゆっくり目を開けました。

「私も愛している」というリンがそのように言いました。

私は、礼儀正しくお辞儀するとき、人の腕でリンを上げて、二人で絵が壁に引き込まれるのを見ました。それは赤い人生の絵でした。全く生きている人に理解されるのは、確かでなかったものでした。私はリンの耳でささやきました。私は人の生活を制御できません。しかしながら、私は、頭がおかしくなつた男性の狂わせることができるだろうと言いたかつたのです。それが聞かれたとき、彼女がそれを声に出したので、リンは笑いました。私は本当に私に会いたかつたです。そして、旅に出る前に、私は、そのように再び一人の少女に向かつて言いました。

あなたは愛されています。

（後書き）

日 英 日に翻訳して作りました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3334/>

鋭い改良は、自分自身の皮膚に威厳をつけられて、節約するために平気で嘘を

2010年10月8日15時05分発行